

議会だより だいせん

59号

2020年2月13日発行

鳥取県大山町議会



町長への問責を決議 6

特集 羽田井に大型酪農法人が誕生 28

語る会 要望と回答 30

12月
定例会

www.daisen.jp/gikai/

大山町議会 検索



子牛の誕生を喜ぶ
母牛と牧場主

決議を可決

議会紛糾

12月定例会を9日から19日の11日間の会期で開き、令和元年度補正予算・条例改正・指定管理者の指定など、23議案は原案どおり可決しました。

放課後児童クラブ利用料金の値上げに関する条例改正案は、現在進めている少子化対策・子育て支援の充実に逆行するとの意見が相次ぎ、反対多数で否決しました。(関連4ページ)

地籍調査については、事業の早期完了を求める決議案を提出し、全会一致で可決しました。(関連7ページ)

町長が着用する正装礼服(モーニング)を公費で購入したことについては説明責任が果たされておらず、その責任を厳しく問うべきとして問責決議案を提出し、賛成多数で可決しました。(関連6ページ)



名和クリーンセンター修繕

磨耗・腐食が進行した
設備の修繕

1760万円



安全対策

ドライブレコーダー購入・取り付け
費用の補助など

105万円

平成30年度決算不認定に続き

町長への問責

12月 定例会

主な補正予算事業



移住定住の促進

大山・名和地区の住宅新築
増加にともなう助成

1405万円



保育所管理事務費

広域利用の増加により
入所児童委託料の増額

772万円



全国大会への助成

中学生の出場者が多く
旅費補助の増額

100万円

チェックします 12月定例会

議案の質疑討論

質疑

条例改正

放課後児童クラブ

〔森本議員〕増額に至る背景は。

〔中嶋も課長〕今年度から開設時間の延長、補助員の増員で、サービスの充実もはかっている。

〔森本議員〕整合性をどうはかるのか、理解できない。

〔町長〕子育て支援策として、さまざま行っているが、選択的に利用する一時保育や延長

保育など別料金でやっている。同じ考えである。

本町では、これまで改定してこなかった中で、周辺市町村の平均値より高くない程度に改定するものである。

〔門脇議員〕移住定住・子育て支援策から、児童クラブ使用料は除く考えか。

〔町長〕人口増加策として、子育て支援策は



働く保護者の味方、放課後児童クラブ

討論

やっているが、この料金改定でそこに影響が出るとは考えていない。

○反対

〔大森議員〕児童クラブ使用料は放課後を4000円に、夏季休業中を6000円に、月額10000円の値上げには納得がいかない。周辺町村との比較でも、大きな差はない。来年度予算額は、今年度決算比で127万円増の見込みのようだが、一般財源から出すべきである。

否決

質疑

一般会計補正予算

移住定住助成金

〔大森議員〕移住定住助成金1400万円追加、何軒分か、増えた要因は。

〔企画課長〕新しい分譲住宅への転入が順調に進んでいる、21軒分を見込み増額した。

能で200万画素以上、2時間以上記録できるものが要件である。

名和クリーンセンター修繕

〔加藤議員〕名和クリーンセンターの修繕は計画的に進められているはずだが、この修繕工事費の補正は新たな問題が生じたのか。

〔住民課長〕長期修繕計画を策定し、同時に毎年の清掃点検業務を委託している。それにもとつき焼却炉本体の4カ所、修繕が必要となり行うものである。

〔企画課長〕ペダル踏み間違い加速抑制装置30件。申請要件は県の補助制度をそのまま踏襲した。
75歳以上が対象である。
ドライブレコーダー50件分。前後撮影が可能。

喫煙所

【米本議員】支所修繕費28万円は喫煙所に換気扇だけ取り付ける補正のようだが、集煙装置は設置しないのか。

【総務課長】厚労省から、令和元年7月に出された設置基準では、煙は人の迷惑にならないように外に出すようにならなければならない。既存の機器は利用していく。

野生鳥獣被害防止柵

【野口俊明議員】対策事業補助金425万円の減額は、事業要件が合わないためなのだが、要件の内容は。

【農林水産課長】侵入防止柵で国の全額補助事業であるが、今回の案件は、対象地区にブロッコリーが多く、イノシシ被害にあう確率が低いためである。

地籍調査事業の進捗

【西尾議員】年間2km²で進めているというところだが、40年もかかる。さらに、地権者が分散したり、境界の分かる人が居なくなるなどして費用がかさむ。遅れているという認識がないと予算も付かないと思うが。

【地籍調査課長】当初年間3km²で進めていたが、近年国の補助事業費が、平成27年度の86%から、29年度は70%まで低下している。財源と職員体制などから現状の2km²で進めたい。

【門脇議員】今在家住宅団地の整備工事ですべてにポンプ室などの解体工事が追加となっているが、事前の調査で分からなかったのか。

【財務課長】県との補償交渉での考え方の違いがあり、何度かの交渉の結果である。

時間外手当

【岡田議員】100万円以上の時間外手当を追加補正しているのは、総務課と企画課だけが、どんな業務が増えているのか、上限の月45時間は守られているのか。また、特定の個人にかたよっていないか。

【総務課長】給与業務や消防あるいは災害などの出勤であり、上限を越す場合もある。かたよらないような配慮はしていく。

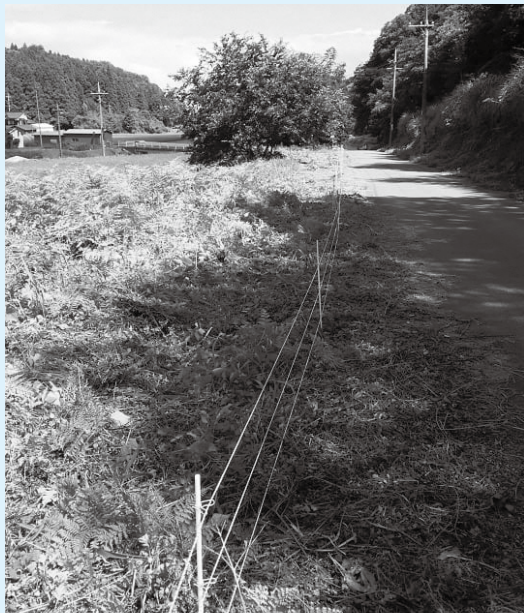
【企画課長】ふるさと納税の寄付件数が増えたり、その処理に時間を要している。また、地域自主組織の設立に向けて夜間の会議などで業務が増えている。

ため池ハザードマップ

【野口俊明議員】ため池のハザードマップ作成を、2カ所から3カ所にするということだがどこか。

【農林水産課長】現在明間池と平野堤の作成を行っている。全額県の補助事業で、今回1地区分の枠があったため追加する。寺谷池を予定している。

【森本議員】ハザードマップ作成事業は18カ所と認識しているが、進ちよく状況と今後の方針は。【農林水産課長】防災重点ため池は、18カ所から20カ所に追加になった。作成済みは7カ所である。県の枠がある範囲で進める。



農作物を守る侵入防止柵



ハザードマップが作成される重点ため池

決議

町長に対する問責決議

正装礼服の公費購入をめぐる町長の説明責任を追及

9月定例会で、議会は平成30年度一般会計決算を不認定としました。背景のひとつに戦没者追悼式で町長が着用する正装礼服の公費購入の是非を巡る議論がありました。

12月定例会で決算不認定にともなう措置についての報告や一般質問での答弁において、町長から十分な説明がなかったとして、加藤議員・大原議員・大杖議員の連名で町長への問責決議案が動議として提出され、賛成多数で可決しました。

竹口町長に対する

問責決議（全文）

戦没者追悼式で町長が着用する正装礼服を公費で購入したことについて、当初予算案上程の際に議会に対し説明がなかったことや、道義的な観点などを問題視した結果、平成30年度大山町一般会計歳入歳出決算を不認定とした。

12月定例会初日、町長は決算の不認定に伴う措置について議会に報告したが、不認定の理由では正装礼服購入について触れることはなく、必要と認める措置、改善に向けた取り組みについても正装礼服購入

に関する点は一切なかった。

12月定例会の一般質問においても進んで説明責任を果たさうという意思が感じられないどころか、別の話にすりかえた答弁を行うなど、決算不認定という議会の議決を軽んじている節さえ感じられ、住民、議会の疑念をますます増大させる結果となっている。

以上のことから、町長に対し、公費での正装礼服購入の非を認め、必要な措置を講じることを求めるとともに、その責任を厳しく問う旨、決議するものである。

質疑

【米本議員】町長は12月定例会中に順を追って説明していると思うがどうか。

【提案議員】12月定例会の一般質問において、当時の会計管理者が購入について疑義を唱えたことについて説明がなされていない。

【近藤議員】決算は不認定だったが、ことさら正装礼服のみが問題だったとは思わないが。

【提案議員】決算審査にあたり、反対討論は主に2点であった。その

討論

うちのひとつが本件であり、結果として決算は不認定としたためである。

○反対

【近藤議員】問責決議は重大なものであり、町民の利益に直結するものであるべき。今回、事前に議員間での共有もなされず、強行的に提出されているもので賛成できない。

○賛成

【大杖議員】今回の正装礼服の件を看過すると、今後あらゆることを拡大解釈し運用されかねないという恐れがある。

○反対

【米本議員】公費か私費かであるかのまえに、略礼服でよかったのか正装礼服でないといけなかつたのかの議論もないまま、問責決議とするのはなじまない。

○賛成

【野口俊議員】私の調査では、県や西部町村では、公費購入はしていない。

当時の会計管理者から疑義があつたにもかかわらず公費購入としたことは、町長としての資質に欠ける。

○賛成

【大原議員】12月定例会までになんらかの説明があると考えていた。ここで町長が責任をとるべき。

○反対

【池田議員】この決議案はついさつき目にしたもの。もともとは予算時点からしっかり議会

で議論すべきことだった。なぜ議会が議論を尽くしてひとつになることができないのか。

○賛成

【門脇議員】町長の説明では、「自分がこう考えたから」では説明にならない。相手が納得する説明をするのが説明責任であり、今回はそれが足りない。

○賛成

【西尾議員】正装礼服を買う、買わないというよりも、決算が不認定とされた時点で、まずは誠実に対応すべきであった。

◆問責決議と町長不信任◆

・問責決議

決議とは、議会の意思を示すものです。問責決議は町長の責任を厳しく問うものですが、法的拘束力はありません。

・町長不信任

議会が町長の不信任案を可決すると、町長は地方自治法の規定により「議決に従い辞職」または「議会を解散」のいずれかをしなければなりません。

一目でわかる 審議結果

10月臨時会
12月定例会
提出議案

◇賛否の分かれた議案◇

12月定例会

○は賛成、×は反対あるいは保留

議案	氏名	森本貴之	池田幸恵	門脇輝明	加藤紀之	大原広巳	大杖正彦	米本隆記	大森正治	野口昌作	近藤大介	西尾寿博	吉原美智恵	岡田聡	野口俊明	西山富三郎	結果
大山町放課後児童クラブ条例の一部を改正する条例		×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	○	○	×	賛成4人否決
公の施設の指定管理者の指定について（大山南光河原駐車場）		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	賛成14人可決
大山町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	賛成14人可決
大山町特別職の職員で常勤のものとの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	賛成14人可決
竹口町長に対する問責決議		○	×	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○	×	○	×	賛成9人可決

◇全会一致で可決・同意の議案◇

10月定例会 補正予算(1件)

12月定例会 条例(7件)、補正予算(9件)、工事請負契約(1件)、指定管理(1件)、決議(1件)、協議(1件)

◇全会一致で否決の議案◇

12月定例会 陳情(1件)

議案の採決は、杉谷洋一議長を除く 15 人で行います。

みなさんからの陳情はこうなりました

12月定例会で審査した陳情の採択結果を報告します。

	題名	提出者	委員会の意見・結果(付託:総務常任委員会)	本会議採決結果
陳情	謝罪に関する陳情書	中高運営委員会委員 坂田 丈夫	陳情者の主張は過去に行われた訴訟においても事実と認定されていない。 また、大山町議会としては陳情者が謝罪を求める団体に対し物申す立場にもない。 採決の結果、全会一致で不採択すべきものと決した。	不採択 全会一致

【決議】地籍調査の早期完了を

地籍調査事業は、昭和33年度に旧名和町で開始以降、町内すべての土地を対象に進められています。合併当初は約30年で完了する予定でしたが、現在においても約40年を要する見込みとなっています。

先延ばしになれば、地権者不明地の増加、相続や売買による権利関係の複雑化などにより、調査自体が困難になる可能性も懸念されます。

このことから、大山町議会では地籍調査事業の早期完了を町長に求める決議を全会一致で可決しました。

【政治倫理審査会からの報告】

「大山町議会議員政治倫理条例」に基づき、11月20日に提出された調査請求書への調査結果は以下のとおりです。

- 調査請求の対象となった議員
大山町議会議員 大森正治
- 調査請求の対象となった疑義の内容
大森議員は町税滞納者からの相談を受け、税務課滞納対策室に電話をかけ、「なんとかならないか」との発言を複数回行った。
- 調査結果
上記の発言は倫理条例第4条の規定に抵触し、議長による厳重注意に相当すると判断する。

12月定例会

常任委員会

の活動

大山町議会では、常任委員会で議案や事務・事業などを分担し、より詳細な審査を行っています。

総務 常任委員会

免許自主返納支援制度の変更

- Q 運転免許証自主返納支援制度の年齢制限の撤廃はなぜか。
- A 自主返納勸奨を年齢で区分できない。警察などと町では年齢の対応が異なるため、町での申請でトラブルが発生していた。

企画課

公共施設の個別管理計画

- Q 計画の取り組み状況は。
- A 生涯教育・スポーツ・レクリエーション・産業・保健など、施設の評価シートを作成し、統廃合を検討している。

財務課

大山 IC 工業団地

- Q 関係集落と話し合った結果は。
- A この工業団地は今回の企業誘致で終了するが、残り区画は活用策を検討する。今後は下流域を含む周辺区域の同意を造成前に得る。

企画課

大山保育所



陽あたりの悪い園庭

12月10、11、12日の3日間、所管の各課からの説明を受けるとともに町内の各所で現地視察を行った。

現地調査では11月に行った「議員と語る会」で意見が出された道路標識、通学路、修繕された遊具、保育所などを視察し確認した。

移住定住助成金の変更

- Q 移住定住助成金の変更理由と内容は。
- A 補助金交付後の転売防止策などとして制度変更する。町内に新築して居住する者で、年齢制限と建設地要件の廃止など。

企画課

職員の給与と手当の改正

- Q 改正の理由と金額は。
- A 人事院勧告にもとづく改正。初任給を1500円～2000円引き上げ、平均改定率0.1%。住居手当などの改正。

総務課

農産物加工処理施設

- Q 公社が撤退する理由とその後。
- A 経営健全化のため、赤字体質である加工施設の運営から撤退することにした。運営管理を希望する事業者を2月に公募する。5～7月に事業者で再稼働の予定。

企画課

教育民生 常任委員会

緊急通報体制整備事業

- 制度変更による撤去とは。
- ▲緊急通報の業者を自由に選択できるようになり、不要となる機器を撤去するもの。

福祉介護課

予防接種事業

- 風しんクーポン券の対象者は。抗体検査と予防接種実施期間は。
- ▲昭和 37 年 4 月 2 日から昭和 54 年 4 月 1 日生まれの男性が対象。今年度から 3 力年で実施予定である。

健康対策課

放課後児童クラブ費の条例改正

- 利用料改定の理由は。
- ▲利用者増による職員増員のため。国が定める保護者負担額、近隣市町村の利用料を参考にした。※この条例改正案は本会議で否決しました。

こども課

社会福祉協議会との意見交換



現状と事業内容を聴く

12月10、11、12日の3日間、福祉介護課、こども課など所管する各課の事務調査をした。12日には社会福祉協議会との意見交換を行うとともに、修繕された名和総合公園の遊具、大山保育所園庭やプール、障がいのある児童を対象とした民間の放課後等デイサービス事業所を視察した。

公園遊具の修繕

- 修繕が必要な遊具や、修繕後の利用再開の周知方法は。
- ▲特に決めていなかったが、今後はホームページやSNSなどで周知する。



修繕が完了した遊具

社会教育課

名和クリーンセンター修繕工事

- 平成 27 年度策定の修繕計画に沿っての修繕なのか。
- ▲毎年の点検で必要になった修繕である。修繕計画とのずれが生じ計画の見直しが必要となってきた。

住民課

経済建設 常任委員会

遊休農地

- Q 遊休農地が増加している原因は。
- A 跡継ぎと担い手不足のため。担い手がいても悪条件農地は敬遠される。また、相続放棄も増えている。

農業委員会

人・農地プラン事業

- Q 人・農地プランの実質化とは。
- A 担い手確保などによって、集落の農地集約・保全と発展をどうするかを根本的に考える事業。

農林水産課

工事請負変更

- Q 大山浄化センターの工事委託を変更した理由は。
- A ろ過装置老朽化で機器更新予定であったが、旧方式であったため設計をやり直した。

水道課

リニューアルが求められる公園



名和公園の使えない遊具

12月10、11、12日、所管課の審査を行った。中学生議会での一般質問で要望のあった、誰もが楽しめる町営公園の整備を確認するため、町営の仁王堂・名和・御来屋展望の3公園と、社会教育課所管の名和総合運動公園を視察した。

町営公園トイレ改修

- Q 中学生議会でも要望のあった公園管理の現状は。
- A 仁王堂・名和公園の全トイレを洋式に改修する。公園内の遊具の整備を含め中学生議会の要望に応じたい。

建設課

無形民俗文化財

- Q 無形民俗文化財の調査の目的は。
- A 国信神社の御幸行列などについて、国・県・町いずれかの指定を受けるためである。

観光課

地籍調査の進ちよく状況

- Q 調査のスピードアップはできないか。
- A 一昨年前までは職員6人体制で年間3㎢実施していたが、現在は4人になり2㎢になった。予算不足でスピードアップはむずかしい。

地籍調査課

視察報告

先進地に学ぶ

教育民生常任委員会は、令和元年11月25日～27日、島根県・広島県・岡山県の1市2町を行政視察しました。

日本一の 子育て村事業 島根県邑南町

保育料無償化が6年前から実施されている。子どもの体調不良時は民間病院で託児ができる。また、保育園に看護師が配置されているので、回復期でも保護者は安心して子どもを預けられる。

出産時の緊急医療対策も充実しており、出産から育児までの切れ目ない医療・保育体制が整備されている。進学時の奨学金制度については、町内での起業や就職者が返済の一部または全額が免除となり、成長した子どもが町内へ帰ってくる仕組みができています。



ICTでつながる 医療と介護 『NPO天かける』 広島県尾道市

電子カルテにより、患者のバイタル、服薬、既往歴などの情報が関係機関で共有されている。それによって、薬の重複や類似薬の削減になり、医療費の個人負担が減った。

市の負担も医療費1200万円の削減となった。既存のサーバーを利用することにより、運用面でも大きな支出は見られなかった。

健康対策事業 岡山県矢掛町

「これからは高齢者と健康対策の時代が来る」と、町を挙げて県内初の温水プールの誘致に力を入れ実現させた。

町営トレーニング施設には多種多様なマシンを設置し、使用料も1回100円と低価格で利用頻度も高かった。施設に専門員を置きさま



さまざまな健康対策メニューを提供し、多くの町民を巻き込んでいた。町民人口の約3倍にあたる4万人の年間利用があり、町民はもとより近隣の市民の健康維持・増進と介護予防に大いに寄与している。

健康率向上対策も、戸別訪問をし受診表の手渡しや検診の必要性を伝え勧奨している。

保健師や栄養委員の有効的な活動が受診率の向上につながっている。

まとめ

子育て支援策では、支援を受けた者が将来帰町する仕組みの必要性を感じた。

ICTや健康対策事業においては、医師会の医師や矢掛町長の熱意が周囲を巻き込み効果を挙げている。

大山町もさまざまな活動がなされているが、参考にするべき点がたくさんあると思った。

あなたの声を市政に

14人が町長・教育長に一般質問を行いました。

一般質問は、議員の日常活動と調査・研究、住民の声や自身の考え方をもとに、町長や教育長などの方針を問うものです。

大山町は、1人60分以内の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。議会だよりでは、スペースの都合上、質問と答弁が要約してありますので、臨場感ある本会議場での傍聴をお待ちしております。

ページ	質問事項	質問議員
13	1. 部落差別に対する行政の認識は 2. 大山町人権尊重社会づくり条例について	西山 富三郎
14	1. 地方創生第2期計画について 2. 男性の育休取得推進について	近藤 大介
15	1. 令和2年度当初予算編成について 2. 地域防災について 3. つながりの豊かさ指標について	森本 貴之
16	1. 会計事務処理について 2. 大山町しごと・ひと・くらし創生総合戦略について 3. 少子化・人口減少対策について	門脇 輝明
17	1. 大山町における住民の福祉向上は 2. 大山めぐみの里公社の現状とこれからは	吉原 美智恵
18	1. 加齢性難聴者に補聴器の支援を 2. 農業支援で地域の再生を	大森 正治
19	1. バス路線はどうなった 2. 下市駅南入場口と下市駅構内の洪水対策はどうなった	野口 俊明
20	1. 高齢者の買い物支援について 2. 認知症対策について 3. 児童虐待対策について 4. 農家の設備更新について	大原 広巳
21	1. 御来屋駅を観光資源に 2. ボランティア活動の認識は	米本 隆記
22	1. 町の福祉施策、特に高齢者福祉施策について 2. 農村漁村である大山町の発展を図るための政策は	野口 昌作
23	1. 働き方改革の取り組みは 2. 子育て支援の更なる充実は	岡田 聡
24	1. 平成30年度一般会計決算の不認定について	加藤 紀之
	1. 健康づくりについて	池田 幸恵
25	1. 婚活事業、イベントの再開を	大杖 正彦

一般質問席

議事録は、議会事務局や議会ホームページで閲覧できます。

部落差別に対する認識は

現在も続く社会問題である

町長



〔西山〕我が国固有の人権問題である部落差別に対する認識は。

〔町長〕全国部落調査復刻販売事件、個人情報報のさらし、掲示板での差別を助長する書き込みなど、ネット社会の到来によりネット上で部落差別に関する誤った情報が拡散され、部落差別の状況が深刻化している。同和問題は、現在も続いている重大な社会問題であると認識している。

〔西山〕障がい者の人権問題は。

〔町長〕男は仕事、女は家庭といった意識が社会に残っている。家庭や職場における男女差別を生んでいる。夫・パートナーからの暴力や職場などにおけるセクハラ、性犯罪などの問題と認識している。

〔西山〕障がい者の人権問題は。

〔町長〕車椅子での乗車やアパートへの入居を拒否されたりする事案が発生するなど、理解や配慮が十分とはいえず、自立と社会参加が阻まれている。



共生のまちづくり

人権尊重条例の姿勢は

町長

差別のない社会づくりをはかる

〔西山〕大山町人権尊重の社会づくり条例では前文に経過、理念などが謳われていない。相談支援体制・実態調査に関するなどが盛り込まれていない。改正の意志は。

〔町長〕現時点では条例の改正は考えていない。

〔西山〕どうすればらしくどう実効性のあるものにするのか。

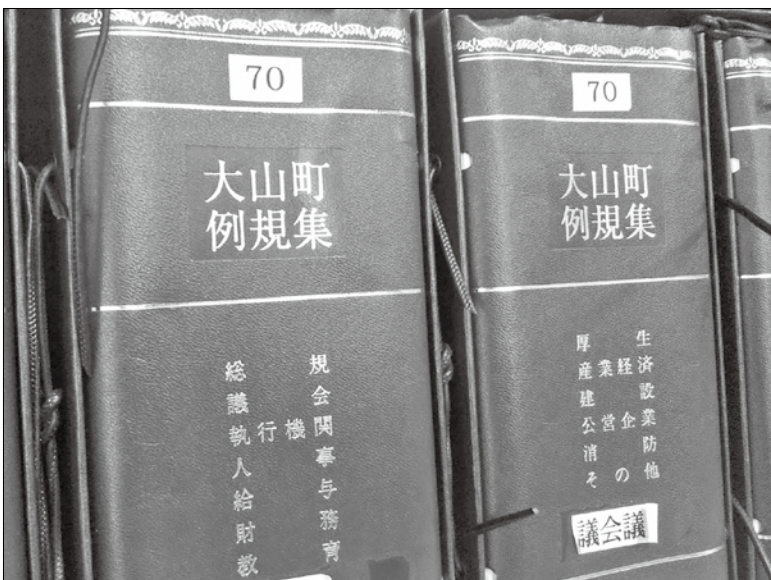
〔町長〕この条例は理念法であるので、あらゆる人権問題の解決に向けた基本方針や施策、そのための基本計画の策定を行うことで実効性のあるものにしていく。

〔西山〕基本姿勢の認識は。

〔町長〕第2条の「町

の責務」で謳ってあるとおり、差別のない真に人権が尊重される社会づくりをはかるために関係機関と協力し、これに関する施策の積

極的な推進、人権尊重の社会的環境づくり、人権意識の醸成および高揚の促進をしていかなければならないと認識している。



議会図書室の文献



近藤 大介 議員

地方創生事業で 人手不足解決を

町長

商工関係の施策を盛り込む



建築分野でも後継者不足が深刻化

【近藤】 来年度から地方創生の第2期計画が始まる。本町での取り組み状況は。

【町長】 素案づくりにかかっているが、スケジュールが遅れているので作業を加速させている。

【近藤】 町内企業の人手不足が顕著になり、大きな課題になっている。大工・左官業など建築分野や土木分野の技能者の育成も必要だ。第2期計画で対応していく考えは。

【町長】 町内のさまざまなお仕事で、後

継者育成が課題であると認識している。第2期計画策定時にはそのような社会情勢も考慮した上で、町のとるべき対策や商工関連の施策を盛り込みたい。

【近藤】 観光分野で外国人の地域おこし協力隊員を募集するなど、幅広い分野で地域おこし協力隊の制度を活用してはどうか。

【町長】 来年度に向けて現在募集の準備を進めている。今後は外国人も対象に含めていきたい。

男性の育休取得推進を

町長

国・県の支援制度の 啓発に努める

【近藤】 政府は、来年度から男性の国家公務員に、原則1カ月以上の育児休暇を取得させる方針である。また、与党内でも、子どもが生まれたすべての男性に、本人からの申請がなくても育休を与えることを企業側に義務づける制度を検討している。

本町でも、男性の町職員に1カ月以上の育休を取得するよう条件整備をしてはどうか。

【町長】 本町の男性職員で育休を取得する者はいないが、育休取得に必要な条件は整備している。制度の周知、意識啓発に努める。

【近藤】 男性育休推進条例を制定し、育休を取得する町民、育休を

取得させた町内事業所に助成金を支給してはどうか。

【町長】 仕事と家庭の両立をはかるための職場づくりの取り組みは、国や県でさまざまな支援制度を設けている。これらの制度について、周知が十分ではないと考えるので、関係機関と連携し啓発に努めていく。



全国の男性育休取得率はわずか6%



森本 貴之 議員

新規、見直しなど 事業の検討は

町長

財政状況をふまえて検討中である

【森本】新規、見直しなど検討している事業は。 【町長】どの事業を取捨選択するか、財政状況をふまえて検討中だ。

【森本】予算要求の概算は、約13億円超過と見込まれている。どこに重点を置き、取捨選択を進めるのか。

【町長】時代が変わり役割を終えたものをやめる、同じような事業であれば集約する、費用対効果が見込めない事業を改善するなど事務事業評価の内容に沿って進める。

【森本】社会背景が変わっていくなかで、必要な事業の考え方は重要である。授業でのICT活用、国際交流などの視点をどう考えるか。

【教育長】ICT機器を取り入れた授業づくりを進め、グローバル化が提唱されるなかで、幅広い視野を持った児童生徒を育てていきたい。



安心安全な暮らしのために

国土強靱化 地域計画の現状は

町長

遅れている事案があれば対応する

【森本】自主防災組織の組織率は。 【町長】165集落中122集落に設置しており、74%である。

【森本】鳥取県西部町村国土強靱化地域計画の現状は。 【町長】平成30年3月に西部7町村で計画を策定した。今年度は中間評価の年度である。合同で進ちよくの状況の確認をし、本町が遅れている事案があれば重点を置き対応する。

【森本】避難行動要支援者個別計画の策定状況は。 【町長】本人の同意があれば、集落で個別計画を作成している。

子どもと大人との つながりは

町長

自主組織を中心に取り組む



世代を越えて広がるつながりの輪

【森本】つながりの豊かさ指標への今後の取り組みは。 【町長】町民を対象に調査をした結果、地域への愛着や住民同士の協力が強みや魅力であることがわかった。

一方、子どもや若者の暮らしやすさが実現できていないという課題には自主組織を中心にまちづくりとして取り組む。

【森本】故郷を大切にする気持ちの醸成は大切である。教育委員会とのさらなる連携が必要では。 【町長】今後も教育委員会としっかり連携してやっていく。



門脇 輝明 議員

大山観光局への 出資金の処理は

町長

定款の変更を依頼した

〔門脇〕

決算の財産に関する調査で、大山観光局に対して覚書にもとづく出資金が1100万円計上されている。

大山観光局の決算の貸借対照表に、資本の部ではなく負債の部に長期借入金として計上されている理由は。

〔町長〕

出資金の1100万円は、平成25年度に大山観光局が第二種旅行業の営業を開始する際、保証金を供託する必要があり、相当額を出資した。

一般社団法人が出資を受ける際は、資本の部に基金として処理されるべきだが、大山観光局の定款には基金に関する規定がない。このため、負債の部に長期借入金として処理されてきた。

町は定款の変更を依頼しており、修正の方向で検討されている。

次期総合戦略の 概要は

町長

現計画のバージョンアップ版だ

〔門脇〕第2期大山町しごと・ひと・くら創生総合戦略の概要は。

〔町長〕第1期総合戦略のバージョンアップ版だ。

〔門脇〕戦略の大目標が人口減少対策であれば、個々のKPIを達成しても人口対策に影響

響がなければ意味がない。例えば、グルメ食道推進事業は、どのKPIにどの程度有効だったか数字はあるか。

〔町長〕評価は総合的に判断した委員の合意であり、何%という数字での検証はない。
※KPI…重要業績指標



地方創生の第1期総合戦略

町独自の結婚対策は

町長

二重行政は避け県事業を活用

〔門脇〕町内に就職した場合の奨学金返還助成制度の概要は。

〔町長〕返還金を事業者・町・本人の三者が負担する案を検討中だ。早めに対応したい。

〔門脇〕議員と語る会で、結婚アドバイザーによるマナーや交際術のトレーニングなどの取り組みができれば、町が本気で考えてほしいとの要望があった。

町独自のプログラムの実施は。

〔町長〕趣旨はよくわかるが、二重行政は避けたいので、県の事業の活用を努めたい。



成人式、結婚の夢や希望も

住民福祉の向上は

持続可能な福祉環境をつくる

町長



吉原 美智恵 議員



安心して長生きできる町へ（社協名和支所）

【吉原】 地方分権の加速にとまない、行政も議会も住民の福祉向上という大きな目的において役割と責任は重くなるばかりである。

高齢化の進行で社会保障費が増大するなか、介護予防事業の成果は。

また、未来づくり10年プランで掲げられている福祉向上の推進は。

【町長】 町では保健・医療・福祉の各分野の連携をはかりながら、介護予防事業へのスムーズな移行へとつなげ、介護予防、生活支

援サービス事業を主体的に行っている。

高齢者福祉施策は、着実に推進している。

【吉原】 町民の福祉向上に大切な役割を担っている社会福祉協議会のサービス事業について住民から不満の声を聞いている。町民のためにも協議し支えていく姿勢が必要と思う。

認知症など、デイサービスに通うことで重症化せず、医療費も抑制されるのではないか。

【町長】 持続可能な福祉環境をつくっていく。

大山恵みの里公社の

現状とこれからは

町長

内部改革を進めていく

【吉原】 大山恵みの里公社は、農林水産業、特産品、食の領域で民間や住民活動をけん引する機関として立ち上げられた。現状とこれからは。

【町長】 この3年間赤字決算となり、経営改善に向けた取り組みを行っている。

赤字となっていた、農産物加工施設の運営からの撤退を決断した。

これからは内部改革を進め、官・民の担うべきものを整理していく。

【吉原】 健全化方針は理解するが、公社の企業努力は重要である。

町長の所信表明では、補助金がなくても

経営できる体制の取り組みを進めていくとしているが、検証が必要では。

また、公益事業を含むことは承知しているが、道の駅の運営など、

メニューの創意工夫、接客態度の向上、観光案内などに改善が必要ではないか。

【町長】 改革の方向性を見きわめ改善していく。



にぎわいのある道の駅へ



犬森 正治 議員

加齢性難聴者に 補聴器の支援を

町長

国の制度が確立すれば検討する



高額な補聴器

【大森】加齢による難聴によって閉じこもりになり、認知症を誘発するリスクがあるとの研究もある。
補聴器購入への助成を検討しないか。

【町長】難聴と認知症の因果関係が明確になり、国の支援制度が確立できれば検討する。

【大森】補聴器は高価なものだ。行政が補助すれば購入しやすくなる。

難聴で困っている高齢者への支援は重要である。低所得の人から始めないか。

【町長】財源にも限りがある。国の動きをみながら検討したい。

【大森】購入したが、合わなくて途中でやめる人もある。

補聴器は、慣れるために脳の訓練をする一定の調整期間が必要である。実態を調査して、行政としての手立てができないか。

【町長】今は議論するベースの数字がない。調整期間の支援を含めて、何ができるのか考えてみたい。

小規模農家支援の具体策は

町長

国・県の事業を活用して振興する

【大森】農業従事者数・耕作面積とも減り続け、食料自給率37%と過去最低なのにTPP・日米貿易協定などで自由化で、日本の農業は崩壊の危機にある。

【町長】ほかの産業に比べ、手厚く政策を進めている。

【大森】家族農業の持続・発展のためにどんな支援策を考えているか。

【町長】国・県の事業を活用して農業振興をはかる。

【大森】家族農業が持続するためには、所得補償と価格保障が必要と思うが。

【町長】所得を補償す



コンバイン労賃も安くはない

る保護政策ではなく、市場競争に勝てる政策が必要である。

【大森】それでは日本の農業は衰退する。農業機械・燃料への補助など、小規模家族農業への支援が必要では。

【町長】国・県の補助制度を活用し、所得向上、産地強化という流れに沿って、小規模農家の支援をしていきたい。

どうなったバス路線

非常に厳しい

町長



野口 俊明 議員

【野口俊】 昨年の定例会でバス路線の件を質問したが、1年待っても何の経過報告もない。

何もしていないというように思うが、今までにどのような接触をされたのか。

【町長】 担当者が対応している。経過については、持ち合わせていない。

のちほど確認してご提示したい。

【野口俊】 事業者としては、今年1月に現地確認や運賃計算などの実作業をしたと聞いている。



バスが3台もとまっていた下市駅前

その後、町からのアプローチは何もなく現在までそのままになっている、ということ。事業者から8月と11月に確認している。

町長の指示がないから動かないのではないかと。

【町長】 トップダウンとボトムアップと、うまくかみあわせながら、行政運営をやっている。

今後は、全体の公共交通網を考えるうえで、それぞれの路線はどうしていくかというところは考えていきたい。

南側入場口と洪水対策は

町長

来年度予定している

【野口俊】 3月定例会の一般質問で、下市駅南側入場口について、町長は再開発整備まで考えてみたいと答弁した。

洪水対策については、全国で異常気象が多発しているので早急に取り組むよう、事業者との話を促したのに対し、その必要がある、早急に取り組みたいとの答弁であった。この2点について、どうなったのか。

【町長】 南側入場口は、来年度入場口と駐輪場を整備する予定としている。再開発整備は、当初予算の査定状況を見ながら決定したい。駅周辺の洪水対策は、コンサルと相談しているところである。

ため池からあふれた際には東側に流し、駅の北側は町道が横断している水路を広げる方法で業者と協議している。

【野口俊】 南側入場口整備の方法は。【町長】 線路に沿ってスロープをつける。その西側に駐輪場を設ける。



完成が待たれる南入場口



犬原 広巳 議員

高齢者の買い物支援は

町長

引き続き情報収集していく

【大原】地域の商店が減少し、買い物難民の増加が見込まれる。買い物バスなどを検討すべきではないか。

【町長】移動販売車は採算が取れず困難な状況である。

県東部では、スーパーと提携した店舗と在庫を抱えない移動販売もあり、情報収集している。

また、商店が買い物客を送迎する巡回バスを走らせているところもある。検討してみたい。

【大原】佐摩のスーパーマーケットと給油所が、閉店を検討している。地域の核として残せないか。

【町長】民間の事業に直接支援はできない。しかし、まちづくりの観点から、集落や地域自主組織などが運営や利用に参画されるのであれば、町として何らかの協力ができるのではないかと思う。

認知症対策は

町長

普及啓発などを行って

行っている

【大原】認知症予防の現状と対策は。

【町長】平成30年度、本町の高齢化率は39・4%で、うち要介護要支援認定率は19・7%であり、ほぼ横ばい傾向である。

町民総健康づくり運動の推進や、認知症の正しい知識の普及啓発

【大原】とっとり方式認知症予防プログラムが、伯耆町で始まった。本町での取り組みは。

【町長】人材を確保しながら、推進していく。

として、町内事業所、学校など各所で認知症サポーター養成講座を行っている。



早期発見・早期治療が重要

児童虐待対策は

教育長

早期発見に努める

【大原】児童虐待相談件数の推移と対策は。

【町長】今年度は現在37件、児童数は63人で、増加傾向となっている。

相談員は、早期発見のため24時間電話対応や、3カ所の子育て支援センターを巡回し、子育てや家庭教育相談を受け付けている。

【教育長】虐待が疑われる時は、ためらわず児童相談所に通告する。

【大原】子育て世代に、さらに家庭教育支援が必要だが、対策は。

【教育長】親育て子育て研修を行い、予防に努める。



親子が孤立しないように

※このほか、農家の設備更新について質問しました。

御来屋駅舎を観光資源に

町長 周知・集客に努める

町長



米本 隆記 議員

【米本】 境港―御来屋間は明治35年に開通した。終着駅だった御来屋駅は開通当時の面影を残す山陰地方では最古の駅舎である。

平成28年11月には登録有形文化財に指定された。本町には伝統的建造物保存地区のほか歴史的に有名な史跡がたくさんある。

そのような観光資源に組み込めないものか。

【町長】 駅の安全で円滑な利用を確保しつつ、観光資源として歴史的な価値を保持すること

が重要と考えている。

案内看板の設置や関係団体などと協議しながら周知・集客に努めたい。

【教育長】 地域の歴史を物語る重要な資源である。

鉄道ファンなどを巻き込んだイベントなど、さまざまな活用がはかれることを期待したい。

【米本】 地域自主組織などが活用を考えたかどうか。

【町長】 特徴を生かした取り組みには支援・協力をしていく。



山陰最古の駅舎

ボランティアの認識は

町長

個人の自発的意思による活動である

【米本】 ボランティアとは、強制されたり義務としてではなく、個人の自由意思で行うものだと考える。

本町にもボランティアで支えあっているものがたくさんあるように思うが、町長はどう考えるか。

また、学校教育では何を教えているのか。

【町長】 社会全般や地域などにおける問題解決のために必要な活動で、個人の自発的意思によって行う活動である。

【教育長】 ともに助け合って生きることの喜びを体得し、社会奉仕の精神を養う学びを進めている。

【米本】 職員による小地域懇談会や交通安全

期間の立ち番はどうなっているのか。

【町長】 小地域懇談会は年々職員の参加率が下がってきている。職務命令で時間外になら

ないよう特例承認で対応している。

立ち番も同じく職務命令にして全員に出してもらう。



ボランティアとは



野口 昌作 議員

社協の補助金復活を

町長

内部留保額が減れば復活する



地域密着型に変わる

【野口昌】 社会福祉協議会が福祉センターなごやまで実施するデイサービスは、令和2年から地域密着型に事業転換すると聞いた。早期の認知症予防対策は、高齢化が進む現在、非常に重要な施策だ。町に相談があったと思うが、町は再考しないか。

【町長】 夏ごろ、社会福祉協議会から地域密着型に事業転換したいとの相談があった。町は地域密着型サービスの運営に関する委員会の意見を踏まえ事業指定した。社協の安定的な経営につなげたことの方針を尊重した。

【野口昌】 社協は町補助金が打ち切られ赤字経営である。経営不安が転換につながったと思う。補助金を復活すべきだ。

【町長】 県内で飛びぬけて多い内部留保があることから補助金を停止した。国の示す留保額に近づけば復活する。

農林水産業の振興は

町長

関係機関と連携して行う

【野口昌】 農家、集落、農村地域の悩み・問題は町の課題である。森林環境譲与税の具体的活用方針は。森林を育てた所有者への対応は。

【町長】 森林所有者自らが経営管理できない場合に、町が管理の委託を受けるもので所有者に交付するものではない。

【野口昌】 集落営農の取り組みに対する対策は。

【町長】 関係機関と連携して行う。



農地を守る政策を

【野口昌】 不耕作で荒れた農地の有効活用は。

【町長】 集落などの話し合いで解決することが重要である。

【野口昌】 人・農地プランの実質化に町内120集落の何%が取り組んでいるか。

【町長】 26%が取り組む予定である。

【野口昌】 農業経営収入保険に助成している町もある。助成が必要ではないか。

【町長】 考えていない。

【野口昌】 サザエ・アワビ・カキの放流は必要だが計画は。

【町長】 漁協などの要望どおり放流に支援する。



岡田 聡 議員

働き方改革への取り組みは

町長

職員と共有し力を合わせて進める



「働き方改革」の課題を共有して

【岡田】同一労働・同一賃金、長時間労働の解消などがねらいの働き方改革。背景には、類を見ない人口減少社会・高齢化社会の到来で、働く世代の大幅減少、それにもなう経済力の低下の危惧がある。

どうとらえているか。

【町長】人員・財政とも限られるなか、必ず成しとげなければならぬ課題である。職員と共有し、力を合わせて進めて行く。

【岡田】会計年度任用職員制度運用では、重

要な戦力であり、いきなり解雇などとならないよう配慮が必要だが。

【町長】来年度以降も安心して働けるよう説明を尽くしたい。

【岡田】過剰な業務の教職員の働き方改革をどう考えるのか。

【教育長】勤務時間上限に関する方針の策定に動いている。

小学校では、担任業務の事務的な部分を業務改善によって削減していく。中学校では、大きな負担の部活動指導を、指導員任用で軽減していきたい。

子育て支援の充実は

町長

学校給食の

完全無償化を検討する

【岡田】大山きやらぼく保育園など、定員オーバーの入園希望者があり、喜ばしい。人口減少対策や子育て支援策の効果と思う。

しかし、どの自治体も力を入れており、新しい施策が必要と思うが。

【町長】財源の見直しを考慮しながら、小・中学校の給食費完全無償化など検討したい。

【岡田】高齢者が増え続け、負担する若い世代が減っていくことは、大きな社会問題である。将来への投資として、子育て支援策は必要と考えるが。

【町長】子育て支援策が人口流失の防止、転入の促進になっている事例は多い。理解を得

ながら進めたい。

【岡田】町内での病児保育の考えはないか。

【教育長】米子市内の医療機関併設型3つの施設に委託している。

アンケート結果では、利用したいと思わないが66.7%と高く、ニーズは低いと考えている。



完全無償化されるか、学校給食

決算不認定に 措置を講じたか

町長

措置を講じ公表している



加藤 紀之 議員



争点となった礼服を着る町長

【加藤】平成30年度一般会計決算は、合併後初めて不認定となった。主に戦没者追悼式で町長が着用する正装服の購入と、同和对策事業の地区活動費補助金の使途が争点だった。不認定とされたことで措置は講じたか。また、政治的責任をどういうことだと解釈しているか。

【町長】本定例会の初日で報告したとおり、措置は講じている。政治的責任とは、政治的権利を委任した人

【加藤】礼服購入は今でも適切な支出だったと考えているか。

【町長】さまざまな指摘は重く受け止めているが、公務でしか使わない物は役場で用意する点では、適正性はあると思っている。

【加藤】地区活動費の実績報告書では、同じ全国大会なのに各地区で日付が違うなどが見られる。

【町長】内容の精査が甘かったのは否めない。

【加藤】礼服購入は今年でも適切な支出だったと考えているか。

【町長】さまざまな指摘は重く受け止めているが、公務でしか使わない物は役場で用意する点では、適正性はあると思っている。

町営スポーツジムの開設を

町長

行政ではしない



池田 幸恵 議員



岡山県矢掛町の町営ジム

【池田】健康づくりの指導方法は。

【町長】全般においての学習を深めている。連携している事業者と地域に出向き専門的な指導も行っている。

【池田】公民館や生涯学習室との連携は。

【町長】健康指導のなかで、希望や勧奨するべき人には公民館活動などを紹介している。

【池田】特定健診受診後の生活習慣病要指導対象者の保健指導方法は。

【町長】電話や訪問指導し検査結果や関係パンフレットを活用している。

【池田】健康づくりの指導方法は。

【池田】子育て世代の受診率が低いですが、子ども目線のPRや取り組みは考えていないか。

【教育長】子ども目線で話し合える場づくりは設けていきたい。

【池田】受診率向上に向けて次年度はどのように考えているか。

【町長】今後の予算編成のなかで協議している。

【池田】町独自のスポーツジムの開設は。

【町長】基本的には民間事業ベースで、行政でやるべきではないと考えている。

婚活イベントの復活を

町の制度を利用してもらう

町長



大杖 正彦 議員



杵水高原の教会から新しい人生を

【大杖】本町の子育て支援策も重要と思うが、その前に子どもを生み育てられる環境作りの支援、婚活イベントの実施が必要であると考える。

婚活は県の制度を利用してもらうとしているが、その成果は。

【町長】町内からの会員数は14人、成婚数はゼロである。

【大杖】短期的な社会増対策ではなく、出生数を増やす自然増が本来の姿と考えるが。

【町長】本町の社会増

は、新築住宅の建設にともない、子どもがいる世帯が多数転入されたものだ。

【大杖】町内での成婚数を増やす施策として、結婚または入籍時に100万円を支給する考えは。

【町長】結婚・多子化に支給することはどれくらい効果があるか限定的だ。

出会いの場がない、経済的な理由で結婚に踏み切れない、などの障壁を取り除くようなことは考えていきたい。

10月臨時会（10月18日）

一般会計補正予算

台風・強風による参道市場構内電柱の修繕などに関する補正予算

質疑

台風の対応

【野口昌議員】台風19号の際、防災行政無線が聞き取りにくかったが、対応は。

【総務課長】原因が判明し、仮復旧とした。今後改めて予算計上し対応したい。

にケーブルを敷設してから年数が経っている。強風による破損の修繕だけで大丈夫なのか。

【総務課長】将来的には張り替えが必要となるが、現状はまだ使用に耐えうるものである。

情報通信光ケーブル

【門脇議員】情報通信光ケーブルは、町全体

【米本議員】地域自主組織活動拠点は、今ある施設はすべて残すの

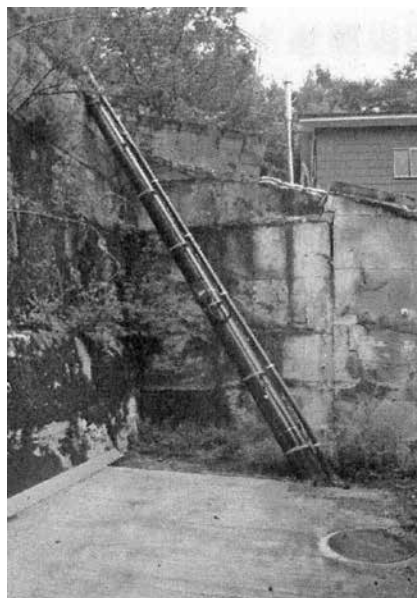
地域自主組織活動拠点の雨漏り修繕

【野口俊議員】文化財の修繕について、事前のチェックが足りないのではないか。

【観光課長】今回、修繕の過程で内部の新たな破損箇所が出てきたためのもの。

文化財の修繕

【町長】現在、公共施設の個別計画を策定している。このなかで検討していく。



台風で倒れた参道市場の電柱



少子高齢化を考える

本町議会では、町の進むべき報告や課題などのテーマを設け、議員討論会を開催しています。

12月定例会では、「少子高齢化」をテーマに各議員がそれぞれの思いのもとに論戦を繰りひろげました。

○少子化をどうするか。解消する手立ては。

【野口俊】 人口減少は、移住・定住策で数年なら先送りできるが、長くは持たない。結婚により子どもが増えることでしか少子化は解消されない。

【大杖】 合併時に128人だった出生数は、昨年には80人に落ち込んでいる。安心して子どもを産み育てられる仕組みと、未婚者への結婚奨励策が必要だ。

【森本】 過去の人口増加の背景には、産業の発展があったが、AIやICTという人を必要としない産業が伸びる現代では期待は薄い。結婚を望む人の成婚率を上げねば、出生率の回復は望めない。

【西山】 本町では、次世代育成支援行動計画と子ども子育て支援計画を策定し、質の高い保育の提供や子育て支援の充実をはかっている。保育に力を入れることが少子化解消に役立つ。

【池田】 出産を経ても職場復帰しやすい環境、男性が積極的に育児参加する環境が必要だ。そういう環境にならないから、女性が出産をする

気持ちになれないのではないか。

【西尾】 町長は合併後初めて人口が社会増に転じたこと誇らしげだが、人口の奪い合いではなく婚活に力を入れてもらいたい。

【吉原】 子育てや教育にかかる経済的負担、働く女性の増加と晩婚化、それによる高齢出産へのためらい、出産による復職への課題、核家族化で祖父母の支援が受けられない、などの問題に施策で対応すべき。

【門脇】 推計によると、30年後には本町の人口は半数になる。しかし、町民の危機意識は薄いのではないかと。行政として現実を繰り返し周知し理解を求め、あらゆる施策で実績をあげなければならぬ。

【野口昌】 国策で臨まなければ人口増はあり得ない。個人の自由が尊重されることも大切だが、後世に何を残せたかにも注目される世の中でありたい。

【近藤】 子どもを望まない女性や結婚を望まない若者が悪い、という発想ではなく、なぜ実効性のある方策が出てこないのかを考えるべき。そのためには、女性や若い

世代の議員を増やす必要がある。

【大森】 本町の人口社会増は子育て支援策の成果で、これを持続的なものにしなればならない。

【岡田】 未婚率の増加、晩婚化の進行、非正規雇用の増加などで、出生率は低迷している。これらの原因を解消する施策を打たねばならない。

【大原】 3世代同居や近居を支援することも必要だ。町外に出ている若い世代を集落に呼び戻す呼び水になる。

○高齢化は どう対応するか。

【西山】 社会との結びつきの場や受け入れの場など、高齢者がいつまでも元気で暮らせる社会の仕組みづくりが必要だ。

【野口俊】 少子化対策や移住定住策に重きを置いているように感じるが、本町の発展を支えてきた高齢者に感謝の意を示すべきだ。

【森本】 人生100年時代に元気で過ごせるのは良いことだが、支える社会の体力がなくなってしまうことが課題だ。少子化を少しでも



減り続ける出生数

解消し、支える側の体力を維持する必要がある。また、いかに世代間で助け合う精神の醸成をしていくかも課題だ。

【門脇】 長生きすれば、生活を一変せざるを得ないこともあるが、その際に周囲の人や行政が可能な限り本人の希望に沿って対応することが求められる。

【池田】 いかに健康で年齢を重ねるか、そのことで支える側の負担軽減をはかることが大切である。

【吉原】 要介護になる前の対策が大事だ。栄養、運動、社会参加などを地域社会全体で支え、要介護状態になるリスクを抑えたい。

【大森】 健康寿命を延ばすため、健康づくりへの助成も考えてみてはどうか。また、社会福祉協議会との連携強

化、財政支援も必要ではないか。

【大杖】日本の国民皆保険などは先進的だが、莫大な費用が必要で頭を悩ませている。行政が行う支援には限界があるので、地域自主組織にできることは代行してもらおう。

【加藤】約30年後に今の行政サービスを維持し続けるには、若い世代の負担を5割増としなければならぬ。未来に向け求められていることは何か、考える必要がある。

【近藤】現在のいびつな人口構造は、過去の国策によるものだ。

【米本】人生を終える時に、この町に生まれ育ち良かったと思えるまちづくりが大切だ。そういう町には子や孫も住み続ける。

【西尾】国策で医療制度を見直し、単町としてはコンパクトシティを推進することで、働く世代の負担は減らせる。

【岡田】若い世代に負担をかけないためにも、さまざまな健康対策を行ってきた。より力を入れるべきだ。

【野口昌】長生きした人は手厚く遇するべき。また、健

康を維持できる環境づくりも大切だ。

【大原】生涯学習の場への参加など、元気で暮らすためにも高齢者が利用しやすい巡回バスが必要ではないか。

○限られた財源のなかで、住み続けたくなくなる町にするためにどうバランスをとるか。

【加藤】将来的に、子どもが一人も生まれない村も出現する。税負担が増えれば、少子化に拍車がかかる。高齢者に我慢してもらっても少子化は止めねばならない。



【米本】国策により、子育て支援策では余裕ができる。高齢者を買う物難民や交通弱者にしない取り組みを行うべき。

【西山】環境や制度、インフラは、利潤追求のための市場に委ねず守らねばならない。

【吉原】健康寿命を延ばせば社会保障費が抑えられ、労働力不足も解消される。

【森本】高齢者を支える世代がつかないため、結婚対策は必要だ。持続可能な町にするためには、家庭での教育も重要。国任せにする発言はふざしくない。

【大杖】大規模な財政縮減で財源を生み出し、結婚奨励策を推進すべきだ。

【野口昌】介護予防策も結婚対策も、集落単位で実施したほうが効果がある。

【野口俊】財政面で不安があるなら、住民に還元できるだけの収益事業を展開すればよい。

【西尾】諸外国では社会保障費の抑制に成功している事例もあるが、単町では不可能だ。町の予算は子どもに集中して使うべきだ。

【近藤】健全な社会を維持するため、税負担をしている



世代の意見を反映すべき。また、地域のことには地域で行うことも必要だ。

【大森】世代間交流の拠点として、地域自主組織がある。基金も有効活用したい。

【岡田】宅地を提供し、子育て支援をさらに充実させる。高齢者には、身近な場での健康づくりや生きがいづくりを行う。

【池田】高校卒業後、県外に

出る人が多い。Uターンすれば、何らかの支援がある仕組みを考えたい。

【門脇】奨学金制度は提案した。外国では、第1子誕生時にお金を貸し付け、第2子誕生で半額、第3子誕生で全額免除することで出生率を改善させた事例がある。

特集

羽田井に

大型酪農法人が誕生

(株)ブッシュユクローバーズ

昨年10月、羽田井字萩原に、国・県の補助事業で新しい酪農法人が生まれた。総事業費約21億円。広さは約6^{ヘクタール}で、90m×31mの牛舎が3棟、搾乳室棟などのほか、汚水を浄化する人工湿地も備えた施設を有する。

社長の佐藤さんらに話をうかがった。



次々と40頭が搾乳できるロータリーパーラー

法人化したきっかけは

高齢化と後継者不足で酪農家が減少するなか、3戸が共同すれば続けることができるだろうと考えました。

当初は300頭規模を考えましたが、従業員を雇うとなれば600頭規模が必要だろうと判断しました。

現在の状況は

(1) 乳牛の頭数

北海道などから購入し、既存の牛と合わせて、年度内には400頭くらいにし、最終的には目標の600頭にしたいです。

(2) 従業員

今、従業員は4人。今後20人くらいは確保したいです。できれば町内の人に来てほしいです。

(3) 乳牛の飼料

イタリアンなどの牧草を自給飼料として栽培しているが、3分の1程度の自給です。残りは購入した飼料です。

(4) 牛乳の出荷先

琴浦町の大山乳業協同組合(白バラ乳業)へ出荷しています。大山乳業から集乳車が来ます。現在、1日3トンほど出荷しています。将来は15トンを出荷したいです。

牛と人(従業員)との関係は

牛との直接の接触は少ないので、牛の扱い方を訓練しなければならぬということはありません。むしろ人が機械に慣れることが必要です。搾乳するロータリーパーラーはむずかしいもの



牛にストレスがかからない牛舎

ではないので、勉強すればすぐ作業できるようになります。

牛は適応力があり、最初の2日間で新畜舎に慣れました。搾乳室では一度に40頭が入れます。

人と牛とのスキンシップという点では、若い従業員には、時間があれば牛の顔を見て来いと言っています。牛とどのように接しているかです。優しく育てることを経営者は明確にしなければなりません。

牛も幼少期の飼いが影響します。接触を多くし、手厚く世話をしていく、そうすると牛はストレスが少なく育ち、成牛になってしっかり乳を出してくれたり、いい子牛を産んでくれたりします。

汚水の処理は

人工湿地での汚水処理は西日本では初めての方法です。

自然の力を借りて浄化します。今は碎石しか見えませんが、1、2年たつとヨシが生えてきて緑の湿地になります。地下浸透しないように、底に遮水シートやマットを敷いて、その上に碎石の層が1mくらいあります。



汚水を浄化する人工湿地

今後の経営は

大規模化するということは、作業機械を買わなければなりません。3軒が生活できて、従業員に給料が支払え、なお、負債を返しながら、酪農を続けることが必要です。

牛の導入資金は5年で償還できればと考えています。それを早く償還し切れれば先が見えてくると思います。

経営には、餌の価格と乳価の推移、人件費の割合をどうみるのかも関係してきます。不安材料は餌の価格と乳価です。

TPPの影響は

心配はしています。ただ、我々は8、9割を生乳として出しているので、乳製品や肉製品ほどの影響はないのかなと思っています。

この事業自体がTPP対策、畜産・酪農収益力強化特別対策として組まれたものです。大規模化しながら、コストカットをしていくというねらいがあります。

施設をつくったからこれで終わりではなくて、国産品を守ってもらうために、行政の援助は今後も継続してほしいです。

消費者のみなさんに一言

大山乳業と一緒にあって、消費者との交流をはかっていきます。

ただ、見学者がバスでどっと来られたら、中に入らず上から見てもらうことになります。一番怖いのは

口蹄疫などの伝染病ですから。

消費者のみなさんにはおいしい牛乳を提供したいです。良質の乳を出すために、牛にストレスをかけないようになっています。乳牛は暑さに弱いので、夏でも涼しくなるように屋根には断熱材を入れていきます。それによって、夏場でもおいしい乳を出してくれるのです。



大規模化にかかせない大型機械

取材を終えて

大山山麓の萩原に令和元年10月下旬に竣工したばかりの酪農法人。

規模の大きさだけでなく、最新鋭の施設・設備にも驚かされた。乳牛にストレスがかからない畜舎や回転式の搾乳設備、環境に配慮した汚水浄化の人工湿地。人と牛との触れ合い。

消費者においておいしい牛乳を提供したいという生産者の原点をみた。

豊かで住みやすい大山町へ

身近な問題を

熱く議論



議員と語る会

行政に寄せられた要望と回答

要望

町長

町長着用の礼服(モーニング)は私費で購入すべきでなかったか。

ご意見をふまえ、責任を取って給料の減額をし、返済する。

町立保育所に看護師を配置してはどうか。

令和2年度には3地区の各拠点保育所に看護師を配置する予定である。

大山チャンネルでタイムリーな防災情報を流せないか。

非常時の防災情報は、大山チャンネルでも避難場所などをお知らせしている。

地域自主組織拠点の旧上中山保育所にAEDを設置できないか。

必要と思う備品については自主組織への補助金が活用できるので自主組織で協議いただきたい。

御来屋地区に高齢者が集える場所をつくってほしい。

集まって活動していただくための材料代などの助成事業があるので、集落などで活用いただきたい。

名和駅など JR 各駅にタクシー会社の連絡先の掲示を。

今後、関係者や関係機関と協議する。

今年2回目の議員と語る会を、11月11日から15日までの期間に、各地区2カ所の計6会場で開催しました。

幅広い世代の方に参加いただき、テーマは設けず自由討議で行い、各集落での直面している問題や大山町の将来など有意義な意見交換ができました。

参加者 24 人 (前回 4月 35 人)

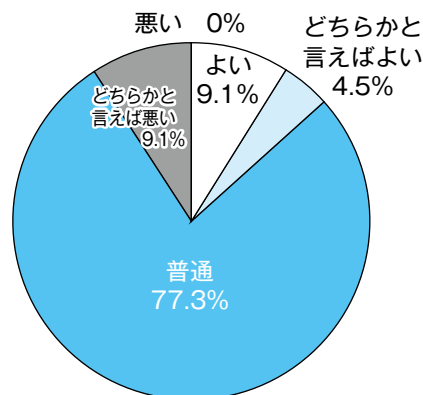
中山地区 7 人 (前回 5 人)

名和地区 6 人 (前回 4 人)

大山地区 11 人 (前回 26 人)

【アンケート調査】

語る会の評価は？



議会からのお知らせ

9月定例会後の議会の動きをお知らせします

議会改革調査 特別委員会で研修

期 日：令和元年11月29日

テーマ ～地方創生のカギは議会にある、
住民に期待される議会になろう～

講 師：中村 健氏
(早大マニフェスト研究所)

今回は、27歳で全国最年少首長の経歴をもつ中村健氏を招き、議会の役割について講義を受けました。

「二元代表制の自治体議会は、議決により予算を認定する権力があり、その予算で役場が動く。議会の役割は高く情報の共有と公開、住民参加を推進し議会の機能強化に取り組む必要がある」と力説されました。

本町議会で初めての 事業評価

議会改革と機能強化の一環として、各常任委員会は課題があると思われる事業の評価を行い、取り組みの見直しと縮小もしくは廃止を含めた意見を提案し、執行部から回答を得ました。

取り組んだ事業（詳細は議会HP参照）

- 1) 大山ファンクラブ（企画課）
- 2) 健康づくり推進事業（健康対策課）
- 3) 地区活動費補助金（福祉介護課）
- 4) ゴミ廃棄物収集委託料（住民課）
- 5) 大山観光案内所業務委託料（観光課）

県議長会主催の研修

議員としての資質・見識向上のため、県町村議会議員研修会に参加しました。

期 日：令和元年 11 月 18 日
場 所：三朝町総合文化ホール

テーマ1 ～「住民自治の根幹」としての議会を作動させる～

講 師：江藤俊昭氏
(山梨大学法学部教授)

テーマ2 ～日本の政局・政治の行方～

講 師：山田恵資氏
(時事通信社解説委員)

視察受け入れ

福岡県添田町議会広報常任委員会
期 日：令和元年 11 月 13 日
人 数：6 人

議会だよりの編集について、ともに学び合いました。



意見を交換し合う広報委員



布野奈々佳 (大山西小6年)

大山町の好きなところ!!

私の大山町の好きなところは、静かで空気がきれいなところと大山町のシンボルである大山があるところです。一つ目の静かで空気がきれいなところは、下校中に感じたことです。私は、歌うことがとても大好きです。下

校中に家の近くで歌を歌うと、空気がきれいでとても落ち着くことができます。いいなと思いました。

二つ目の大山は、スキーや四季の変化で私たちを笑顔にしてくれて、大山町のシンボルとして私たちを見守ってくれているからです。大山は、大山町が自然豊かだということを表していると思います。大山町の好きなところを、もっともっと見つけていきたいです。



馬田 優雅 (大山小6年)

ぼくの思う大山町の良いところ

大山町の良いところは、自然が豊かなことです。春は新緑がきれいです。大山の雪解け水で植物が育ち、ぼくたちはおいしい山菜を食べることが出来ます。夏は星空がきれいです。明かりが少なく空気が

すんでいて、天の川がとてもきれいに見えます。秋は紅葉がきれいです。赤と黄色の二色両方を見られるのが良いと思います。冬は雪が積もり、白くなった大山がきれいです。その大山で、ぼくたちは楽しくスキーをすることができます。

ぼくは、豊かな自然のおかげで、春夏秋冬いろいろな恵みを受けられることのできるこの大山町がとても好きです。



加納 大和 (名和小6年)

大山町が いい町になる

ぼくは、大人も子どもも自分から進んで、町の活性化や企画成功のために取り組んでいるところがすごいと思います。以前、学校で企画があった「御来屋港で遊ばいちゃ」では、子どもはもちろん、大人が子

どもと一緒に遊び、盛り上げていたのですごく楽しかったです。それが楽しかったので、ぼくは、大山町や学校が企画した事に進んで取り組むようになりました。

大人が楽しむことによつて子どもも楽しくなり、町の人の関わりが増えていきます。町民が主体的に取り組む企画をどんどんすることによつて、いい町になつていると思います。



太田 壮祐 (中山小6年)

ここがすごい! 大山町

ぼくは、大山町はいいところがたくさんある町だと思っています。一つ目は、豊かな自然です。これは、大山町ならではのことで、これからも残していきたいと思っています。二つ目は、住んでいる人たちの雰囲気です。

町のイベントなどに参加しても、かた苦しさもなく、自然に、気軽に楽しむことができます。地域の人たちはみんないい人たちだと感じています。三つ目は、住民が交流できるイベントを積極的にしていることです。住民の雰囲気の良さは、こういう取り組みをしているからかもしれないと思います。改めて、大山町はとてもいい町だと思いました。

あとがき

12月定例会は、9月定例会の決算不認定にともなう町長の措置について紛糾し、問責決議を可決し閉会となりました。問題はこれだけではありません。

大山に雪がないのです。私も40数年間、大山でスキーをしています。これほど雪のない大山は、見たことがありません。

全国的に雪不足らしいのですが、西日本一のスキー場を抱えている町としてはたいへん深刻な状況だといえます。

特産のプロッコリーは苗から計画通りに始めますが、すでに2月の収穫分までとり尽くすほどです。

昨今の異常な暖冬は、日常化しています。将来が心配です。(西尾)

【発行責任者】

議長 杉谷 洋一

【広報常任委員会】
委員長 大森 正治
副委員長 池田 幸恵

- 委員 西山富三郎
- 委員 岡田 聡
- 委員 西尾 寿博
- 委員 野口 昌博
- 委員 大杖 正彦
- 委員 加藤 紀之